

(2) 明石真言、立崎英夫、宮後法博、椎野剛成、富永隆子、蜂谷みさを、石原弘、田村泰治、梅田諭、大友康裕、阿南英明、近藤久禎、中野実、吉岡

敏治、黒木由美子、NBC テロ病院初期対応の検討及び研修の試み、日本保健物理学会第42回研究発表会、宜野湾市、2008.6（予定）

III 資料

成田国際空港におけるNBCテロ対策合同訓練結果

- 日時** 平成20年2月15日(金) 10時00分～11時10分
場所 第2ターミナルビル本館3階南側 館内及びカーブサイド
主唱 成田NBCテロリズム対策研究会
主催 千葉県警察、成田市消防本部、成田国際空港株式会社
参加機関 主唱、主催を含めた29機関
(国土交通省、「国際連携ネットワークを活用した健康危機管理体制構築に関する研究」・健康危機管理テロリズム対策システム研究事業(厚生労働省)、空港危機管理室、印旛健所、成田国際空港航空会社運営協議会ほか20機関)
- 参加人員** 188名
参加車両 17台
取材報道機関 11社 16名
視察者 110名
- 訓練項目** ①連絡通報 ②犯人の確保及び被災者の隔離 ③千葉県警、成田市消防本部及びNAA消防の出動 ④危険、準危険、警戒区域の設定 ⑤旅行客及び空港関係者等の退避及び誘導 ⑥空調の停止による汚染区域拡大防止 ⑦除染施設及び一時待避所(医療関係者待機場所)の設営 ⑧放射線医学総合研究所の現場出動 ⑨被災者のスクリーニング ⑩不審物質(放射性物質)被汚染者の除染 ⑪救急車等による被災者及び汚染物質の搬送 ⑫被災者の把握 ⑬汚染現場のサーベイ及び除染 ⑭事故に係る各種警備及び規制

進行状況

- 10:00 事案発生(南側ロビーで、男がバックから取り出した容器から不審物質をばらまいているのを警備員が発見。警察官と連携し、その男を制止・拘束した。)



- 10:01 事案発生通報実施

- 10:02 警察官及び警備員による現場立ち入り規制等実施

10:02 避難誘導開始



10:09 千葉県警察、成田市消防本部及びN A A消防到着



10:10 現場指揮所設営

10:10 除染施設設営開始



10:10 一時避難所設営開始

10:13 レベルA防護服装着隊員進入開始



10:14 危険区域の設定



10:14 放射線医学総合研究所所員進入開始

10:17 不審物質特定のためサンプリング及び回収活動開始



10:22 避難した旅客等のスクリーニング及び乾的除染開始

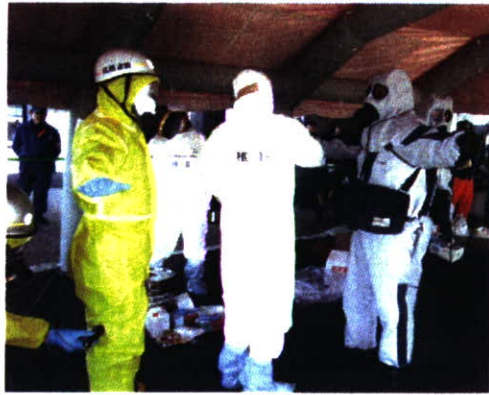


10:26 医療関係者は除染不可能であった被災者の観察を行うとともに、成田市消防本部と協力し搬送病院の調整開始

10:32 被災者の救急搬送開始



10:44 活動隊員のスクリーニング開始



10:59 活動終了

成田国際空港におけるテロ対策合同訓練

成田国際空港第2ターミナルビル

平成20年2月15日（金）

主唱 成田NBCテロリズム対策研究会

主催 千葉県警察
成田市消防本部
成田国際空港株式会社

1 目的 国際テロ情勢は未だ厳しい中、サミット開催に伴う各国要人の入国が予想される成田国際空港においても、一層のテロ対策強化が求められることから、医療、警察、消防機関等により構成された成田NBCテロリズム対策研究会が策定した成田地区NBC災害初動対応マニュアルに基づき、テロ対策訓練を実施し、それぞれの対応や各機関間の連携した体制を確認することを目的とする。

2 実施日時 平成20年2月15日(金) 10時00分～11時00分

3 訓練場所 第2旅客ターミナルビル本館3階南側 館内及びカーブサイド

4 主 唱 成田NBCテロリズム対策研究会(代表世話人 学校法人日本医科大学成田国際空港クリニック所長 牧野 俊郎)

5 主 催 千葉県警察、成田市消防本部、成田国際空港株式会社

6 参加機関 国土交通省、「国際連携ネットワークを活用した健康危機管理体制構築に関する研究」・健康危機管理テロリズム対策システム研究事業(厚生労働省)、独立行政法人放射線医学総合研究所、空港危機管理室、成田空港検疫所、印旛保健所、三郡医師会航空機対策協議会、日本アイソトープ協会、成田赤十字病院、医療法人社団國手会空港クリニック(第1PTB)、日本医科大学成田国際空港クリニック(第2PTB)、日本医科大学千葉北総病院、日本航空インターナショナル株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社JALグランドサービス、東日本旅客鉄道株式会社、京成電鉄株式会社、成田国際空港空会社運営協議会、セコム株式会社、株式会社全日警、成田空港警備株式会社、株式会社大和サービス、エイチ・エス損害保険株式会社、ジェイアイ傷害火災保険株式会社、NAAファイアー&セキュリティ株式会社

7 訓練想定 第2旅客ターミナルビル本館3階南側ロビーで、男がバックから取り出した容器内の放射性物質をばらまき、拡散させた。
(放射線医学総合研究所協力のもと、放射性物質がテロにより散布された想定で訓練を実施する)

- 8 訓練項目
- ①連絡通報
 - ②犯人の確保及び被災者の隔離
 - ③千葉県警察、成田市消防本部及びNAA消防の出勤
 - ④ホット(危険)、ウォーム(準危険)、コールド(警戒)ゾーンの設定
 - ⑤旅行者、空港関係者等の退避及び誘導
 - ⑥空調の停止等による汚染区域拡大防止
 - ⑦除染施設及び一時避難所(医療関係者待機場所)の設営
 - ⑧放射線医学総合研究所の現場出動
 - ⑨被災者のスクリーニング
 - ⑩不審物質(放射性物質)被汚染者の除染
 - ⑪救急車等による被災者及び汚染物質の搬送
 - ⑫被災者の把握
 - ⑬汚染現場のサーベイ及び除染
 - ⑭事故に係る各種警備及び規制

- 9 模擬被災者 50名
- 10 訓練現場位置図 別図第1「訓練位置概況図」及び別図第2「訓練区域図」のとおり
- 11 訓練連絡系統図 別図第3「訓練初動連絡系統図」のとおり
- 12 その他 ①訓練は、雨天決行とする。ただし、荒天のため中止する場合は、主唱及び主催三者で協議のうえ、当日の08時00分までに決定する。
②訓練の通報にあたっては、冒頭に「訓練」という言葉を付し、実際の事故と区別する。
③訓練出動にあたっては、前照灯、赤色回転灯を点灯するとともに、サイレンを吹鳴する。
④訓練終了後、訓練参加者は、別図第2「訓練区域図」の講評、挨拶実施場所に集合する。

訓練概要

- ① 成田国際空港第2PTB本館3階南側ロビーで、男がバックから取り出した容器内の不審物質をばらまき、拡散させた。
- ② 巡回していた警備員が発見し、付近にいた警察官2名により制止・拘束された。
警察官による聴取によると、放射性物質の散布が疑われた。
- ③ 警備員は、中央管理室に通報する。中央管理室は、NAA警備消防センター及びNAAサービスセンターへ通報するとともに、巡回中の他の警備員を応援に向かわせる。現場の警察官は、無線を使用し、応援要請を行う。
- ④ 通報を受けたNAAサービスセンター及び警備員は、現場付近で警戒線を設置するとともに、旅客等の動線を制御する。
- ⑤ NAA警備消防センターは、NAA消防、千葉県警察、保安警備部等へ連絡するとともに、現場へ出動する。
なお、NAA消防は、成田市消防本部に連絡する。
- ⑥ 千葉県警察、成田市消防本部及びNAA消防は、直ちに出勤する。
成田市消防本部は、成田NBCテロリズム対策研究会及び放射線医学総合研究所へ災害発生と被災者発生との連絡をするとともに、現場への出動要請を行う。
- ⑦ 千葉県警察、警備員、NAAサービスセンター及びNAA警備消防センターは、ロビーにいる旅客等を発災付近から離れるよう避難誘導するとともに、現場付近への立ち入り規制を行う。
- ⑧ NAAサービスセンターは、空調の停止等の措置を取るとともに、他の旅客等の誘導にあたる。
- ⑨ 成田市消防本部は、到着後現場指揮本部を設置する。千葉県警察、NAA消防及び各関係機関到着後、合同現場指揮本部を設置する。
- ⑩ 放射線医学総合研究所は、現場に出動し、各機関と協力して活動を開始する。
成田NBCテロリズム対策研究会も、各機関と連携をとりながら活動を開始する。
- ⑪ 千葉県警察及び成田市消防本部は、調整しながら、各区域設定（ゾーニング）を実施する。
- ⑫ 千葉県警察、成田市消防本部及びNAA消防は、協力して出口付近に除染施設を設置する。
- ⑬ 千葉県警察、成田市消防本部及びNAA消防は、協力して出口付近南側に一時避難所（医療関係者待機所）を設置する。
- ⑭ 放射線医学総合研究所は、発災付近の床に散乱した不審物質のサーベイ及びサンプリングのための汚染物質の回収を行うとともに、汚染除去を実施する。
- ⑮ 千葉県警察、成田市消防本部、NAA消防及び放射線医学総合研究所は、発災付近にいた旅客等のスクリーニングを実施する。
- ⑯ 千葉県警察、成田市消防本部及びNAA消防は、除染施設において、汚染者の除染作業を実施するとともに、各機関は除染後のスクリーニングを実施する。汚染が残った被災者については、医療機関へ搬送する。
- ⑰ 医療関係者は、被災者の観察を実施するとともに、搬送先病院の決定を行う。
- ⑱ 千葉県警察及び成田市消防本部は、被災者状況を把握する。
- ⑲ 放射線医学総合研究所は、現場で回収した不審物質を、千葉県警察の先導のもと、関係機関へ搬送する。

過 程 練 訓

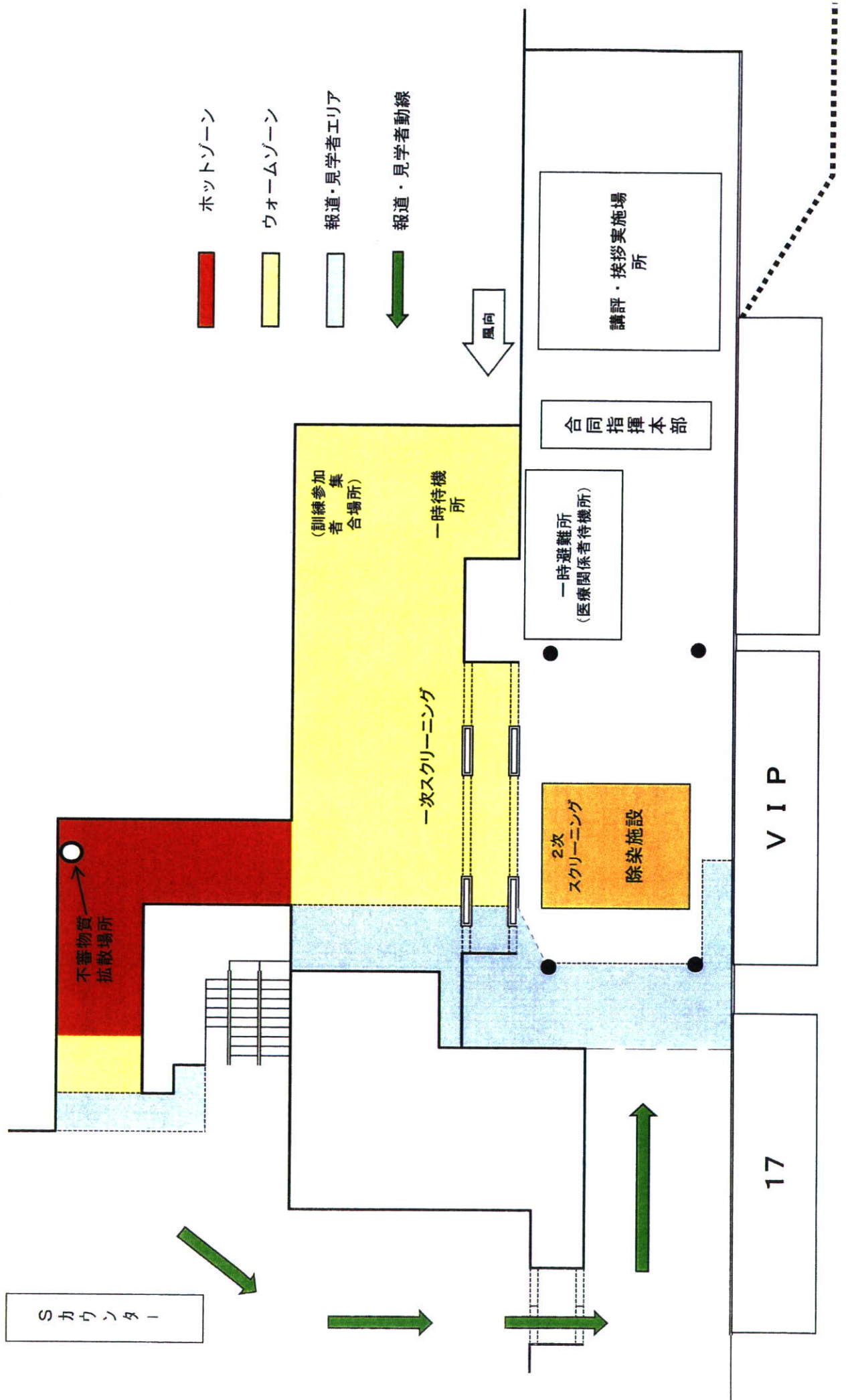
時刻	内 容
9:00	訓練参加車両待機場所集合（P-3 駐車場）
9:00	旅行者、航空会社社員等 3 階出発ロビーに配置完了 ※訓練開始前に事案発生部分の撮影予定
10:00	事案発生（南側ロビーで、男がバックから取り出した容器から不審な物質をばらまいているのを警備員が発見。警察官と連携し、その男を制止・拘束した。）
10:01	警備員は、中央管理室に通報する。中央管理室は、NAA 警備消防センター及びNAA サービスセンターへ通報するとともに、巡回中の他の警備員に現場へ向かうよう指示する。
10:01	現場の警察官は、無線を使用し、応援要請を行う。
10:01	通報を受けたNAA サービスセンター及び警備員は、現場付近で警戒線を設置するとともに、旅客等の動線を制御する。
10:02	NAA 警備消防センターは、NAA 消防、千葉県警察、保安警備部等へ連絡するとともに、現場へ出動する。NAA 消防は、成田市消防本部に連絡する。
10:02	連絡を受けた千葉県警察、成田市消防本部及びNAA 消防は、通報内容によりNBC 災害対応として、直ちに出動する。
10:02	成田市消防本部は、成田NBC テロリズム対策研究会及び放射線医学総合研究所へ事案発生と被災者発生を連絡するとともに、現場への出動要請を行う。
10:02	千葉県警察及びNAA 警備消防センターは、先着のNAA サービスセンター及び警備員と協力して、ロビーにいる旅客等の避難誘導を実施するとともに、現場付近への立ち入り規制を行う。
10:02	NAA サービスセンターは、3 階出発ロビー全域の空調停止及び防火シャッター閉鎖の措置をとる。
10:05	千葉県警察、成田市消防本部及びNAA 消防は、気象状況を考慮し、風上側の車両乗降場に現場到着する。
10:05	成田市消防本部は、到着後、気象状況を考慮し、風上側の出入り口南側に現場指揮所を設置する。
10:06	現場指揮所は、千葉県警察、NAA 消防及び各関係機関到着後は、合同指揮本部とする。
10:06	成田NBC テロリズム対策研究会及び放射線医学総合研究所は、現場に出動し、各機関と協力して活動を行う。
10:06	千葉県警察及び成田市消防本部は、ゾーニングを開始。レベルA 防護服で進入し、電離箱式空間線量率計で計測。不審物は、放射線と判明した。
10:06	千葉県警察、成田市消防本部及びNAA 消防は、協力して出口付近に除染施設を設置する。
10:06	千葉県警察、成田市消防本部及びNAA 消防は、協力して出口付近南側に非汚染者及び除染完了者のための一時避難所（医療関係待機所）を設置する。
10:10	千葉県警察及び成田市消防本部は、不審物が散布された場所の周囲半径 20 m をホットゾーン、待合エリアをウォームゾーンと設定する。
10:10	放射線医学総合研究所は、現場到着し、発災付近の床に散乱した不審物質のサーベイ及びサンプリングのための汚染物質の回収を行うとともに、汚染除去を実施する。
10:12	放射線医学総合研究所は、回収物質の解析を実施したところ、放射性物質であることが判明した。
10:13	放射線医学総合研究所は、ゾーニングを追認。以降の活動にあっては、タイベック及び簡易マスクでの対応可能と判断し、合同指揮本部へ情報提供する。
10:15	千葉県警察、成田市消防本部、NAA 消防、放射線医学総合研究所及び成田国際空港クリニックは、避難した旅客、航空会社社員等のスクリーニングを開始する。
10:16	千葉県警察、成田市消防本部及びNAA 消防は、協力して出口付近に設置した除染エリアにおいて、除染を開始する。

時刻	内容
10:20	乾的除染実施後のスクリーニングにより、汚染が残った3名にあっては、拭き取り除染を実施するが、除染が不可能であったため、医療機関への搬送が決定された。
10:20	医療関係者は、拭き取りで除染不可能の3人の被災者の観察を行うとともに、搬送病院等の調整を行う（2名は放射線医学総合研究所へ、1名は千葉北総病院への搬送が決定）。
10:20	成田市消防本部は、被疑者を警察官同乗のもと、日本医科大学千葉北総病院へ搬送する。空港警察署パトカーは、救急車の警戒にあたる。
10:21	N A A 消防及び放射線医学総合研究所は、除染が終了した警備員及び警察官を放射線医学総合研究所へ搬送する。
10:22	放射線医学総合研究所は、現場のウォームゾーン及び出発ロビー全域の検索を実施。有意な汚染は、見つからなかった。
10:35	有意な汚染のあった者は、自力での乾的除染を実施し、除染完了後、スクリーニングを受ける。
10:35	N A A 消防は、乾的除染が完了した被災者の経過観察のため、仮想ホテルへ搬送する。
10:35	有意な汚染のない旅行者、航空会社社員等は、一時避難場所にて待機し、その後仮想ホテルへ搬送される。
10:45	スクリーニングにより、旅客、警備員、警察官及び被疑者の計20名から有意な汚染が検出された。
10:45	放射線医学総合研究所は、発災現場付近を確認し、除染作業を実施。検出限界値（N. D.）レベルまでの除染完了
10:45	千葉県警察及び成田市消防本部は、被災者数及び医療機関への搬送状況を把握する。
10:50	千葉県警察、成田市消防本部、N A A 消防、放射線医学総合研究所及び成田国際空港クリニックは、活動隊員自身のスクリーニングを実施
10:59	放射線医学総合研究所は、現場で回収した不審物質を、千葉県警察の先導のもと、関係機関へ搬送する。
11:00	各隊活動終了
11:05	訓練参加者は、別図第2講評・挨拶実施場所へ集合
11:07	講評・挨拶
11:10	訓練参加者解散

訓練区域図

別図第2

第2旅客ターミナルビル出発階(3階)南側



厚生労働科学研究費補助金
健康危機管理・テロリズム対策システム研究事業

国際連携ネットワークを活用した
健康危機管理体制構築に関する研究

平成 19 年度 総括・分担研究報告書

発行 平成 20 年 3 月 31 日
発行者 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金
健康危機管理・テロリズム対策システム研究事業
「国際連携ネットワークを活用した
健康危機管理体制構築に関する研究」
主任研究者 近藤久禎
日本医科大学救急医学教室
東京都文京区千駄木 1-1-5
TEL03(3822)2131